

令和5年8月7日
大阪公立大学医学部附属病院

ペースメーカーの設定変更により著しく電池を消耗し、
本体交換術が必要になった事例について

当院において、ペースメーカーの設定変更により著しく電池を消耗し、ペースメーカー本体の交換手術が必要になった事例が発生しましたことをご報告申し上げます。この事例におきまして、速やかに医療安全に関する会議を開催し検討を行いました。その結果、手順を改訂し、設定変更後にレポート印刷を行い、設定の確認を実施することで、再発防止に取り組んでおります。

患者さん、ご家族の方をはじめ関係者の皆様には、今回このような事態を招いたことを深くお詫び申し上げますとともに、今後の再発防止に努めて参ります。